

緑の基本計画

第三期行動計画

～平成31年度事業評価のまとめ～



評価シートの結果について

1 評価

稲城市自然環境保全審議会委員に5段階（◎、○、△、×、－）で評価していただいたものを点数化し、その平均値を四捨五入し判定します。評価の点数は次のとおりです。

◎＝3点、○＝2点、△＝1点、×＝0点、－＝－1点

※例えば、平均値が1.5点であれば2点となるので全体の評価は○になり、1.4点であれば1点となるので全体の評価は△となります。

2 評価理由

稲城市自然環境保全審議会委員からいただいたご意見をランダムに掲載しております。

目次・総合評価表

施策番号	施策名	担当課	◎	○	△	×	-	平均	総合評価
1-1	自然環境保全地域の指定・拡充	土木課	2	7				2.22	○
1-2	樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課	1		3	5		0.67	×
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	土木課	8	2				2.80	◎
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	区画整理課	1			1	3	0.60	×
2-2	既成市街地での適切な公園配置方針の策定	土木課	1			1	3	0.60	×
2-3	借地公園制度の運用検討	土木課	1				4	0.60	×
2-4	身近な公園の再整備	土木課	2	8				2.20	○
2-5	公共施設の緑化	教育総務課	2	7	1			2.10	○
2-5	公共施設の緑化	指導課	2	4	5			1.73	○
2-5	公共施設の緑化	子育て支援課	1	9				2.10	○
2-5	公共施設の緑化	生涯学習課	1	9				2.10	○
2-5	公共施設の緑化	市民協働課	2	6	2	1		1.82	○
2-5	公共施設の緑化	健康課	1	8	1			2.00	○
2-5	公共施設の緑化	市立病院管理課	2	2	6			1.60	○
2-5	公共施設の緑化	図書館課	1	8				2.11	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	土木課	1	8	2			1.91	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	管理課	1	7	1			2.00	○
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	区画整理課	2	7				2.22	○
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	市街地整備課	1		8	1		1.10	△
3-2	公共施設の緑化	教育総務課	1	8				2.11	○
3-3	地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討	都市計画課	3			2	2	1.29	△
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	区画整理課	1				4	0.60	×
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	市街地整備課	1	7	1			2.00	○
4-1	駅前緑化プロジェクト	区画整理課	1				4	0.60	×
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課	1		1	7		0.44	×
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	市街地整備課	1		5	2		1.00	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	土木課	1	2	6			1.44	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	管理課	1	8				2.11	○
5-2	各種普及啓発活動の実施	指導課	1	8				2.11	○
5-3	水と緑の情報収集・提供	土木課	1		8			1.22	△

評価シートの記入について

評価 (◎、○、△、×、-)	<p>5段階で評価してください。</p> <p>◎: 高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)</p> <p>○: 評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p> <p>△: やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)</p> <p>×: 評価できない(まったく進んでいないなど)</p> <p>-: 未評価(当該年度は着手時期ではない)</p>
平成31年度事業報告に対する意見	
上段の評価をした理由	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-1 自然環境保全地域の指定・拡充

施策の展開方針	「緑の環」を形成している多摩丘陵の斜面緑地は、市内のどこからでも目にすることができるなど、稲城の緑の骨格として緑豊かな稲城のイメージの源泉となっています。 市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、自然環境保全地域の指定・拡充を図り、景観や生物多様性の向上に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	良好な民有樹林
10年間の目標	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。
展開手法など	「稲城市における自然環境の保護と緑の回復に関する条例」に基づき、自然環境保全地域を指定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	14箇所 約9.9ha	
事業目標量	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。	
第三期事業量	平成29年度	薄葉谷戸川東側の斜面緑地
	平成30年度	駒沢学園北側の斜面緑地
	平成31年度	追加指定について検討する。
第四期事業量	令和2年度	駒沢学園北側の斜面緑地の指定
	令和3年度	新規指定候補地の検討
平成31年度事業報告		
事業目標	追加指定について検討する。	
事業実績	籠谷周辺緑地(約1.8ha)の指定	
担当課評価	○	
評価理由	新規に指定することが出来たため。	
今後の対応	引き続き市内の良好な民有緑地確保のため、新規指定に努める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・何もしないとどんどん開発が進んでしまうので、保全地域を指定して緑を担保する事はいい。 ・毎年確実に地域指定が実施できている事と、地権者に対して了解を取り付けている担当課の努力を高く評価したい。 ・全面ではないにせよ、既存の保全地域の近傍に新たな地域を指定できたことは評価しうる。このような動きが契機となって、広範な指定地域が形成されていくことが期待できる。 ・稲城市の緑化は貴重な市の財産を増加させ、長期的な環境保全に役立つものと考えられます。概ね計画どおり推移しており、引き続き新規指定を増しましょう。 ・新規指定することができた。 ・計画通り実施していることが評価できる。 	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-2 樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、指定された自然環境保全地域の樹林地の育成管理を行う、樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援を行います。
担当課	土木課
対象施設など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地
10年間の目標	2箇所 1団体(第一期段階) 第二期以降に、実施箇所の追加の検討
展開手法など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地に隣接する、川崎市の小沢城址特別緑地保全地区では、既にボランティアによる樹林地管理が行われています。このボランティア団体と連携を図りながら、稲城市側でも樹林地管理ボランティアを組織化していきます。他の樹林管理についても、その管理ノウハウを広めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	まったく進んでいない。	
事業目標量	2箇所1団体(第一期段階)。第二期以降に実施箇所の追加の検討する。	
第三期事業量	平成29年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成30年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成31年度	5-1で組織化した市民ボランティアを民有地で活動できるよう、検討する。
第四期事業量	令和2年度	樹林地管理計画の策定
	令和3年度	ボランティア活動支援の実施
平成31年度事業報告		
事業目標	5-1で組織化した市民ボランティアを民有地で活動できるよう、検討する。	
事業実績	・森林環境譲与税の使い道の1つとして検討した。 ・市内で活動できるような場所や管理方法について検討した。	
担当課評価	△	
評価理由	方針が決まらなかったため。	
今後の対応	引き続き活動に向けて検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・ここ数年ずっと「検討する」のようです。もう検討はいいのでは。そろそろ「人材育成」等考えてみてはどうでしょう。人育ては時間がかかります。</p> <p>・なかなか市民ボランティアを活用する制度は難しいと思う。</p> <p>・多摩市の事例調査や調布市の事例研究など、分科会活動を進めながら実施したが担当者の移動でストップ状態となってしまっている。</p> <p>・引き続き活動に向けて検討していくことが望まれる。</p> <p>・検討するのみで終わってしまった。ボランティア活動を軌道に乗せるためには遠い道のりだと感じる。</p> <p>・色々試行錯誤してご努力をしているのは理解できますが、この段階で「全くすすんでいない」・方針も決まっていないのは、結果評価としては×を選択せざるを得ません。</p> <p>・5-1の進捗に左右される事とは思いますが、最終目標と考える市民活動に至るステップが全く進められていない印象があります。しくみや方法を役所側だけで考える手順で、期限も設けていなければ、何も動かないでしょう。市民への情報発信等により、関心ある市民を巻き込んで可能性を検討するような模索がなければ、絵に描いた餅のそしりを免れません。</p> <p>ガワを作ってから中身を探すのではなく、中身とあわせて可能性あるガワを検討する姿勢が必要と考えます。</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-1 生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備

施策の展開方針	既成市街地内を流れる大丸用水を活用し、散策路の整備を行い、水と緑の歩行者空間のネットワーク化を進めます。整備を行う際は、身近な親水空間として生態系に配慮した護岸整備などを進めていきます。
担当課	土木課・区画整理課
対象施設など	菅堀・新堀・中野島用水堀
10年間の目標	3,362mの整備
展開手法など	菅堀は、第四次稲城市長期総合計画に基づきながら、生態系や親水性に配慮した親水公園の整備に努めます。 区画整理事業により整備される主要な用水について、生態系や親水性への配慮を事業計画に盛り込み、整備を進めていきます。
備考	土地区画整理事業区域内は区画整理課が担当し、その他は土木課が担当する。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	菅堀150mの調査・基本設計、詳細設計を行った。	
事業目標量	菅堀を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	菅堀150mの整備
	平成30年度	菅堀120mの整備
	平成31年度	菅堀150mの整備・事業完了
第四期事業量	令和2年度	菅堀150mの設計
	令和3年度	菅堀120mの整備
平成31年度事業報告		
事業目標	菅堀150mの整備・事業完了	
事業実績	菅堀150mの整備を行った。	
担当課評価	◎	
評価理由	事業スケジュールを見直した結果、平成31年度の整備計画とした150m区間の工事を予定通り完了できたため。	
今後の対応	第四期事業計画のとおり事業を進めていく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・整備・事業完了ということの評価します。しかしながら、新たに加えられた令和2年度以降の事業において、今回整備完了したはずの菅堀150m区間について、「菅堀150mの設計」とあるのは、意味を解しかねております。整備完了後に設計を実施するはずはないので、延長が同じで別の区間であるなら、表記を工夫してください。昨年度も、目標が「菅堀120mの整備」とあって実績は「詳細設計を実施した:○」と担当課評価されていました。具体記述を避けた目標を設定しておいて、一部でも実施したことを○と評価するのであれば、この評価システムは正常に機能できません。</p> <p>・右側と左側とで工事の方法が違うのはなぜでしょう？ 歩道は出来なかったのですか？</p> <p>・計画通り完成できたことが評価できる。</p> <p>・事業計画に沿って実施できている。</p> <p>・少し計画より遅れているようだが、着実に進んでいる。</p> <p>・お疲れ様でした。</p> <p>・目標が達成できた。</p>	

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・榎戸土地区画整理事業：中堀系水路62mの整備完了 ・矢野口駅周辺土地区画整理事業：田川系45mの整備完了 ・稲城長沼駅周辺土地区画整理事業：新堀系196mの整備完了 ・南多摩駅周辺土地区画整理事業：清水川系15mの設計中 	
事業目標量	新堀・中野島用水堀などを整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	・榎戸土地区画整理事業：清水川系(25m)
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
平成31年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方針を示してほしい。 ・平成30年度の事業目標であった「・榎戸土地区画整理事業：清水川系(25m)」は、着手できなかったという報告がありました。また、同年度における第四期事業量には「・榎戸土地区画整理事業：公園通り梨の道線(400m)」が予定事業として掲げられていました。今回も次年度以降も、これらの部分についての計画構想がないようですが、今回分だけ見ると、既に事業済み・課題解決済みのように見えてしまいます。表現について一考されたいと考えます。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-2 既成市街地での適切な公園配置方針の策定

施策の展開方針	既成市街地で公園が少ない区域では、身近な緑の拠点づくりとして、適切な公園配置方針の策定を行います。
担当課	土木課
対象施設など	既成市街地
10年間の目標	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定
展開手法など	公園利用の実態などの不足状況の調査を実施し、まちづくりのあり方に合わせて、市民ニーズを踏まえた公園の配置方針を策定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	既成市街地での適切な公園配置方針について検討した。	
事業目標量	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定する。	
第三期事業量	平成29年度	これまで検討した既成市街地での公園配置方針に加え、生物多様性を考慮した公園・緑地の配置方針について検討する。
	平成30年度	平成29年度に検討した結果を踏まえ、既成市街地での適切な公園配置方針の策定をする。
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	公園の配置方針を踏まえた公園整備方針の策定
	令和3年度	公園の配置方針を踏まえた公園整備方針の策定
平成31年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・今後の方針を示してほしい。</p> <p>・本年度については事業目標がないので、本来ならば評価対象ではないと考えられるが、平成29年度・30年度において、担当課みずからが低い評価を付けていた項目について、平成31年度に目標設定がないことは疑問に思うので、×評価を付けさせていただいた。目標に対し何もかもできるとは思っていないが、現状の公園配置を評価し、事業化が困難だとしても何らかの方向性は出して欲しい。方向性を市民・行政に示すこともひとつの成果であり、できなかったことが現実条件を表現することになって、次の段階の計画設定に役立つと思われる。</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-3 借地公園制度の運用検討

施策の展開方針	新たな公園整備が困難な場合、借地公園制度を活用し、借地による公園整備を行います。
担当課	土木課
対象施設など	一定基準を満たすちびっ子広場など
10年間の目標	4公園(第一期)
展開手法など	一定基準を満たすちびっ子広場などを活用して、借地による公園整備を行います。 既成市街地での適切な公園配置方針を踏まえ検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	下塚戸ちびっ子広場の開園告示。ふれあいちびっ子広場の公有地化。他のちびっ子広場についても借地公園制度の活用を検討を行った。	
事業目標量	4公園(第一期)、第二期以降は地権者の意向などを踏まえながら柔軟に対応していく。	
第三期事業量	平成29年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する。
	平成30年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
	平成31年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
平成31年度事業報告		
事業目標	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	平成30年度に検討が終了しているため。	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・今後の方針を示してほしい。</p> <p>・未評価項目ではありますが、30年度報告において「公有地化を検討した:○」とされながらも、担当課として「今後の対応」欄に「引き続き公有地化を検討する」とされていました。ところが、今年度評価では、昨年度の残課題に触れることなく「既に検討が終了している」として、評価対象から外されているのはどうしてでしょうか。前年の認識が活かされていません。この項目については、PDCAサイクルが機能していません。</p> <p>以下に、昨年度記入した意見を再掲します。</p> <p>『29年度報告では、担当課が「公有地化の検討を行っているが、具体的な方針が示せていない」と「△」評価されていました。30年度にこれが「○」に変わったということは、何らかの具体方針が出せたのでしょうか。そうならば実績欄にそういう表現をしていただきたいのですが、「検討はしました」というだけで「○」ならば、昨年と変わらないこととなります。</p> <p>目標が段階的に定められていないために、こういうことが起こるのだと思われませんが、この繰り返しであれば、PDCAサイクルなど成立しないこととなります。』</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-4 身近な公園の再整備

施策の展開方針	老朽化した身近な公園は、子どもから高齢者までが気持ちよく使い、楽しく魅力ある公園となるよう、整備内容や整備後の維持管理などについて、地域住民との協働による再整備を進めていきます。
担当課	土木課
対象施設など	街区公園など身近な公園
10年間の目標	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備
展開手法など	再整備にあたっては、地域住民からなる検討会などとの協働による整備を進めます。 アダプト制度を活用した、地域住民による公園管理も視野に入れた公園の再整備に努めます。 再整備にあたっては、公園施設の点検結果などを踏まえて検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	稲城中央公園・上谷戸親水公園・亀山下公園などの再整備を図っている。	
事業目標量	街区公園など身近な公園を再整備する。	
第三期事業量	平成29年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成30年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成31年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
第四期事業量	令和2年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	令和3年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
平成31年度事業報告		
事業目標	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。	
事業実績	・松葉公園のすべり台の更新 ・稲城大橋ふれあい公園に防球ネットを設置 など地域の意見を聞きながら公園の再整備を図っている。	
担当課評価	○	
評価理由	事業目標のとおり公園の再整備を図っているため。	
今後の対応	地域との連携を継続し、検討を重ね、再整備を実施する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・公園は全市民にとって重要なものなので、費用の問題もあるが整備をしていく必要がある。 ・公園の設備等の老朽化対応は大変な仕事です。引き続き様々な情報収集を行いご努力をお願い致します。 ・地域の意見を聞きながら整備が進んでいる。 ・地域の方々との意見を取り入れ再整備が進んでいる。 ・再整備がきちんとできたことが評価される。 ・事業目標が抽象的なため、実績報告が少しでもあれば進捗と評価せざるを得ません。もう少し具体的な目標を掲げることはできないでしょうか。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

施策の展開方針	公共施設は、身近に緑を感じられる拠点として、緑豊かなまちづくりの先導的な役割を果たすよう、広がりと厚みを持った緑の創出に努めていきます。
担当課	教育総務課・指導課・子育て支援課・生涯学習課・市民協働課・健康課・市立病院管理課・図書館課
対象施設など	市所管全公共施設
10年間の目標	市立保育園、市立小中学校、文化センター、地域振興プラザ、市立病院、城山体験学習館などで緑化の充実
展開手法など	既存施設では、緑化可能場所を対象に、屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなどの緑化を進め、既に整備済の箇所については維持に努めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
平成29年4月現在の状況	校庭の一部芝生化6校(第六小、向陽台小、長峰小、平尾小、二中、四中)	
事業目標量	一部芝生化した校庭(6校)、屋上緑化(2校)の維持。	
第三期事業量	平成29年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成30年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成31年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
第四期事業量	令和2年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	令和3年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
平成31年度事業報告		
事業目標	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)	
事業実績	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行っている。	
今後の対応	引き続き一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行う。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・長峰小学校を見学した。緑のカーテン(ゴーヤ)が今年は酷暑のため少々枯れてしまった。稲の田んぼがつくられ、よく管理されていた。土手に植栽が多く、散策できるようになっているので、子供たちにとっては樹木の名前や成長を知る機会があり、とても良いのでは。全小学校でこのような取り組みをしてほしいと思った。</p> <p>・校庭の一部芝生化6校(第六小、向陽台小、長峰小、平尾小、二中、四中)は管理程度の差はあるが、コロナ禍の中、児童・生徒が登校出来なかった事もあり、今後の整備に期待したい。</p> <p>・屋上緑化について、費用をかけて設置したのですから「緑化」という最低限の管理はしてほしい。景観を問われるわけではないので、植物であればいいわけで、雑草もあり?</p> <p>・部分的な芝生化はかなり定着してきた印象があります。その一方、実際に芝生化された範囲は、校地の広さに対し限定的であり、名目的に目標達成している学校もあるように感じます。実際に拝見すると芝生化を施工したエリア以外にも、運動広場の周囲には緑化もできそうなスペースがありますので、こういった範囲までも事業対象にするなど、一層の積極緑化に期待したいと考えます。屋上緑化についても、本来は建物全体の温熱環境改善が目的ですので、限られた花壇部分だけでなく、限られた範囲での試行を活かして、面積拡大・全面緑化などの発展に期待したいです。枠内緑化は維持管理しやすいという趣旨もありませんが、緑化エリア内に踏み込める園路を設けるなど、やり方についても工夫が欲しいと思います。</p> <p>・指定管理者はもとより、実際に携わっていただいている皆様の、継続的なご努力に感謝いたします。</p> <p>・緑化した所の維持は大変だと思う。</p> <p>・概ね管理が行われていることが評価される。</p> <p>・現状を維持している。</p>	

担当課名	指導課	
平成29年4月現在の状況	小中学校18校で緑のカーテンを継続している。	
事業目標量	小中学校17校で緑のカーテンを実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成30年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成31年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
第四期事業量	令和2年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	令和3年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。	
事業実績	小中学校18校でゴーヤ等の種を配付した。原則的に全校実施としているが、生育状況に差が生じている。	
担当課評価	△	
評価理由	学校によって、生育状況に差が生じているため。	
今後の対応	適宜、学校への啓発を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・生育状況にはご関係の現場職員の努力も反映されますが、設置環境や気候の影響もあると思います。担当課は生育状況という結果について△評価されましたが、種の配付や実施奨励、できれば技術指導なども行われているのであれば、担当課としてやるべきことはやった、という評価があってよいと思います。認識される問題点が生育状況だけに止まるのであれば、動きのある行動がなされたとみなして○評価させていただきます。緑のカーテンは、芝生化などよりは積極的に微気象環境を改善する試みだと思います。実施を目的とした取組みの時代から、効果や育成環境を考慮した工夫が必要となると考えます。幅や高さの拡大など、今後の発展に向けた取り組みに期待します。</p> <p>・生育状況の差はおそらく真剣度の違いなのだと思う。</p> <p>・指定管理者の実際に携わっていただいている皆様の、継続的なご努力に感謝いたします。</p> <p>・猛暑が続く中、休みの日も朝と夕方に水やりをしている校もあり、今後、継続的に管理する事に期待したい。</p> <p>・概ね管理されていることが評価される。</p> <p>・今年はコロナのため管理が難しかったのでは？</p> <p>・ちょっと難しそうだ。</p>	

担当課名	子育て支援課	
平成29年4月現在の状況	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施を継続	
事業目標量	保育園4園での花壇、緑のカーテン、菜園を実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成30年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成31年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
第四期事業量	令和2年度	公設公営2保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	令和3年度	公設公営1保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
平成31年度事業報告		
事業目標	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
事業実績	保育園での花壇・緑のカーテン・菜園を実施。	
担当課評価	○	
評価理由	花壇、緑のカーテン、菜園の植物が順調に成長した。	
今後の対応	ひまわり、朝顔など、緑のカーテンの充実を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・これだけ温暖化が進み、夏の熱中症増加が社会的な問題になっている中、緑のカーテンや緑化が再評価されるべきです。引き続き強化・推進しましょう。 ・第3保育園・第4保育園・第5保育園で緑のカーテンや花壇の手入れが行われていた。猛暑で管理が大変だった事と思いますが、継続的に行われるよう期待したい。 ・収穫する楽しみをぜひ味わってほしいと思う。 ・子供たちと一緒に活動しているので緑化だけでなく、教育にもなる。 ・緑のカーテンの趣旨は、植物が育つだけでなく、その結果としての建物内・園庭などの温湿度環境の改善にあると思います。残念ながら、これまでの視察ではそれを顕著に感じられるスケールでの運営実態はないように思います。現場で取り組まれる職員皆さまの努力もありますが、施設整備として植え柵や花壇の配置・増設なども考えていかねばならない可能性を感じております。手法や規模について、各保育園だけでなく、市担当課の姿勢や改善アクションに期待します。 ・概ね管理されていることが評価される。 	

担当課名	生涯学習課	
平成29年4月現在の状況	文化センター5館で緑のカーテンを実施。iプラザの屋上緑化を維持。	
事業目標量	文化センター5館で緑のカーテンを実施する。iプラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続
	令和3年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続
平成31年度事業報告		
事業目標	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	文化センター5館で緑のカーテンを実施し、iプラザも継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	現状維持が適当である。	
今後の対応	現状維持を維持する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持できた。 ・ほぼ維持管理がされていることが評価される。 ・中央文化センター・第2文化センター・第4文化センター猛暑の中で管理されていた。 ・実際に携わっていただいている皆様の、継続的なご努力に感謝いたします。 ・屋上緑化はなかなか見られないのが残念だ。 ・緑のカーテンや屋上緑化の趣旨は、植物を育てるだけではなく、その結果としての建物内・園庭などの温湿度環境の改善にあると思います。残念ながら、これまでの視察ではそれを顕著に感じられるスケールでの実態はないように思います。現場で取り組まれる職員皆さまの努力もありますが、施設整備として植え柵や花壇の配置・増設なども考えていかねばならない可能性を感じております。手法や規模について、各施設や担当課だけでなく、緑政を担当される部署との連携などスケールアップしうる改善に期待します。 	

担当課名	市民協働課	
平成29年4月現在の状況	地域振興プラザの屋上緑化を維持している。	
事業目標量	地域振興プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成30年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成31年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
第四期事業量	令和2年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	令和3年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持管理を継続する。	
事業実績	地域振興プラザ屋上緑化の継続	
担当課評価	○	
評価理由	維持管理に努めたため。	
今後の対応	現状の設備の範疇で引き続き緑化推進に取り組んでいく。 品種については、乾燥や高温に強く、また繁殖力も強い性質から、当面セダムを継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の対応も具体的に「課題に関する対応策」が示されており、PDCAが順調に廻っている。見事です。 ・現状の設備の中で、まずまず管理されていることが評価される。 ・部分的な枯れなどが発生しているように感じる。 ・今夏の暑さのためか全体的に緑が枯れている。水を常に供給する設備が必要なのでは。屋上緑化とはどういう意味があるのかしら。 ・今年は例年に比べてセダムが元気だった。 ・これまでの試行的な取り組みは定着してきた感があります。しかしながら、なぜ部分的なのか。建物の温熱環境を変えていくスケールでの実施にさらに期待しています。そのためには、現状では用意されていない水栓を設置するなど、建物設備からの取り組みも必要と感じました。これは現場職員だけでは実現しない取り組みであり、施設運営担当部署としてのサポートに期待いたします。 ・屋上緑化はなかなか見られないのが残念だ。 ・気温が高かったためか 	

担当課名	健康課	
平成29年4月現在の状況	概ね維持できている。	
事業目標量	稲城市健康プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	令和3年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	概ね維持できている。	
担当課評価	○	
評価理由	指定管理者と連携し、草刈りや散水の調整など緑化に努めた。	
今後の対応	緑化を維持していくため、指定管理者との連携をより深める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・ここは面積が大きいので、内部の手入れが大変と思います。外周に通路をとって外から手入れするのも限界があると思いますので、踏み込んだ園路のような工夫もあってよいのかなと思います。</p> <p>発展に期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草取りや散水の効果が出ている。草の勢いが強く青々としている。 ・雑草の繁茂が気になる。 ・引き続きの指定管理者の皆様との連動を期待しております。 ・概ね維持されていることが評価できる。 ・屋上緑化はなかなか見られない。 	

担当課名	市立病院 管理課	
平成29年4月現在の状況	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	令和3年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。	
事業実績	健診外来棟:リュウノヒゲ135㎡はほぼ枯れ、雑草が生えている。立体駐車場屋上:アベリア・ツツジ・ハギ・ヤマブキ等150㎡は良好に維持されている。	
担当課評価	△	
評価理由	立体駐車場の屋上緑化は、緑化率の促進及び目で見える安らぎに貢献しているが、健診外来棟は、枯れてしまった。	
今後の対応	立体駐車場の屋上緑化は、継続して維持管理していき、健診外来棟の屋上緑化は、緑化率を促進するよう改善していきたいが、資金の確保に懸念が残る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場の屋上緑化は、植栽が安定しており目で見える安らぎに貢献している。健診外来棟は枯れてしまったが、散水等で再生の可能性があるため、継続的に管理願いたい。 ・前に視察に行った時、枯れているのもあり残念だった。 ・立体駐車場屋上は、設計段階から緑化を前提の修景を整備された、市内唯一と思われる能動的な緑化スペースです。剪定など手入れも必要と思いますが、適正な維持に期待します。健診外来棟屋上は、見せる緑化というより、環境対策としての緑化ですので、少々の荒廃は気になりませんが、植えた植物が枯死したり雑草すら生えない状態に陥ったとしたら、環境づくりに失敗があった可能性があります。失敗を失敗に終わらせず、この経験を活かして雑草でもいい、繁茂する状況に至ることを期待します。 ・健診外来棟の屋上緑化については今後維持管理の改善が望まれる。 ・人の立ち入りが少ない場所の管理は定期的な観察が必要である。 ・予算の問題あるのでしょうか、資金確保の懸念は大きな問題ですね。ご苦労様です。 	

担当課名	図書館課	
平成29年4月現在の状況	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	城山体験学習館の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	令和3年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	
事業実績	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	概ね実施できている。	
今後の対応	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね緑化できているように感じる。 ・雑草もはびこらず良く管理できている。 ・建築の設計段階から取り込まれた緑化だけに、見た目が美しいです。そこそこの植物定着があるようで喜ばしいことです。他の屋上緑化建物とは違い、城山公園から目に触れる機会もある場所だけに、今後の継続に期待します。 ・現状の管理設備で維持するのは難しいと思われる。 ・屋上緑化は人の目にふれないのでとても残念です。 ・引き続き、よおしくお願い致します。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-6 自然樹形を感じさせる維持管理の検討

施策の展開方針	道路は日常的に市民が利用する空間であり、道路の緑がもたらすイメージは緑の豊かさを感じるための主要な要素になっています。また、広がりや厚みを持った豊かな街路樹のある道路は、季節を感じることができます。これからの街路樹は、それぞれの樹種の特性を活かした自然樹形を感じさせる剪定手法や、美しい花を楽しめる剪定期の採用など、維持管理手法を検討していきます。
担当課	土木課・管理課
対象施設など	周辺への影響が少ない大規模な公園 周辺への影響が少ない路線
10年間の目標	5公園、8路線
展開手法など	周辺への影響が少ない大規模な公園や市道を対象に、自然樹形を感じさせる樹木管理を行い、街に風格を与えるように努めます。これらのために、緑の育成管理手法の検討、選定手法など維持管理手法の検討を行います。都道は、東京都へ協力を要請します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	自然樹形を感じさせる育成管理を継続している。	
事業目標量	稲城中央公園、城山公園、若葉台公園、大丸公園、平尾近隣公園で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。代表的な樹木をホームページに掲載し、PRを行う。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
第四期事業量	令和2年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	令和3年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	自然樹形を感じさせる育成管理を継続するために、適切な剪定を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	自然樹形を感じさせる育成管理を継続しているため。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・写真資料等で見る範囲では、きれいに管理された状態が見えますが、これが自然樹形というものなのか、いささか疑問も感じることがあります。これはきれいに整えることを比定するものではなく、もしかしたら、目標設定の段階で一律に「自然樹形」を謳うことに無理があるのかもしれない。</p> <p>資料写真の②や③などでは、公園内でありながら、隣接した樹木との距離が近すぎたり、街路樹的な立地に植えられた④では、極端な繁茂ははばかられます。全てが自然樹形を目指したのでは、ただの山林ですし、公園内では、群として整えられた強剪定の樹木が混在するのもありかもしれません。その中で、周囲に十分な余裕があったり、シンボリックな景観を形成できる樹木について「特に自然樹形を目指す」という濃淡がありうるかもしれないと思うようになりました。こういう判断には、市民をも巻き込んだ意見交換や方針決定があれば、理解も進めやすいと思います。平成29年度の担当課考察には記述があった取り組みの復活に期待します。</p> <p>・公園の中の樹木は、もっとのびのびと大きく仕立てても良いのでは？</p> <p>・写真を見ると、剪定後に伸びた状態がこの写真に反映されているのであろう。強剪定をしているように感じ、のびやかさがなく感じる。</p> <p>・平尾近隣公園に関して、造成されて40年以上経っているだけあって樹木はとてもよく育ち、ヒマラヤスギやポプラ等、見事です。平尾住民の憩いの場になっている。ただベンチが少ない。下の広場から上方へ行く時、もう少し登りやすい階段をつくつたらいいと思う。</p> <p>・概ね育成管理が行われていることが評価される。</p> <p>・シラカシやヤマモモは毎年枝が伸び、樹形が乱れるので定期的な剪定を継続願いたい。</p> <p>・都の自然樹形の5段階資料のご提供ありがとうございました。また、写真等の資料提供もとても参考になりました。</p> <p>・自然樹形を保つ管理は大変だ。</p>	

担当課名	管理課	
平成29年4月現在の状況	現況8路線の適切な育成管理を行った。	
事業目標量	堅神社通り、iプラザふれあいロード、若葉台東櫨の木通り、若葉台西櫨の木通り、若葉台中央通り、若葉台公園西通り、多摩川サイクリングロード、三沢川側道で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	追加路線を検討する。自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
平成31年度事業報告に対する意見	令和2年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	令和3年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
平成31年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	自然樹形を感じさせる育成管理を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	2路線について自然樹形を感じさせる形の剪定を実施した。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・多摩川サイクリング道は散歩や自転車走行に日陰になるので、道幅一杯に管理してほしいですね。また、散歩や自転車の人に接触するような下枝は処理をお願いしたい。</p> <p>・資料写真はいずれも、周囲に余裕があったり、車両交通がない場所だったり、現状も目標どおりの剪定になっているように思えます。</p> <p>資料写真はありませんが、車道と歩道の間にある街路樹など、空間的制約が大きい場所での剪定のあり方は、「自然樹形を感じる」だけでは目標にならない可能性があり、今後の取り組みに期待いたします。平成29年度には、今後の課題として、「管理上必要な剪定と自然樹形育成の両立」という視点が盛られていましたが、その後の目標設定は一律なままで残念です。背反するかもしれない課題を意識したり、市民の理解を求めることも重要なので、この葛藤は常に意識しておきたいです。</p> <p>・自然樹形を保つ事と、道路の安全(木か視界をさえぎる)との両立は難しい。</p> <p>・写真は作業中のものが含まれており、判断できない。</p> <p>・概ね育成管理が行われていることが評価される。</p>	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-1 土地区画整理事業による公園・緑地の整備

施策の展開方針	土地区画整理事業により、新市街地の整備とともに、計画的に配置された公園や緑地が整備されます。これらの公園・緑地の整備にあたり、積極的に広がりと厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。また、植栽する樹木には、樹名板を設置して市民が親しみを持てるようにします。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	新たに設置される公園・緑地
10年間の目標	公園16箇所(120,077㎡) 緑地13箇所(33,911㎡)
展開手法など	事業区域内の権利者や関係団体と協議し、緑の基本計画の考え方が反映されるように、整備内容の検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	南多摩駅周辺土地区画整理事業:公園1箇所529㎡の設計中	
事業目標量	公園(6箇所)10,488㎡を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
平成31年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	南多摩駅周辺地区3号、4号緑地整備完了	
担当課評価	○	
評価理由	事業目標量として設定はしていないが、南多摩駅周辺地区3号、4号緑地の工事を完了したため、「○」評価とした。	
今後の対応	南多摩駅周辺地区3号、4号緑地の緑の維持管理に努めていく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAにKPIが設定されていないので、量的評価はできないが、樹名板は結構設置されています。 ・事業目標量として設定はしていないが、南多摩駅周辺地区3号、4号緑地の工事を完了したため、「○」評価とした。人工芝生化公園はすっきりとして、雑草も暫くは生えませんが良好ですね。 ・小さく、しかも大半が人工物の緑地ですが、周囲のビルドアップが進んだ段階では、有効はオープンスペースとして機能する可能性があります。運営についても地元との協働が意識されるようですので、そのような運営が、市民参加・ボランティア育成などの動きにつながるといいと考えます。ただし、事業目標が空欄で、結果だけ存在するというのは、評価シートのしくみに反した結果であり、担当課はよいとしても、外部から○×の評価をつけることの意味が希薄になります。目標の立て方を見直す(例えば「可能な範囲で整備を進める」とか)ことも必要です。特に、本件などは、土地区画整理事業など他事業の進捗に左右されるので、担当課としてはスタンバイしていることを目標にすべきだと考えます。 ・土地区画整理事業で緑が確保される。 ・計画通り完了できたことが評価される。 ・工事完了したため。 	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	上平尾土地区画整理地区内の公園2箇所9,350㎡(三反田湧水公園、寺谷津公園)	
事業目標量	公園10箇所110,589㎡、緑地13箇所33,911㎡	
第三期事業量	平成29年度	南山土地区画整理地内の公園1箇所9,405㎡、緑地2箇所7,479㎡ 上平尾土地区画整理地内の公園2箇所4,164㎡、緑地5箇所17,565㎡
	平成30年度	南山土地区画整理地内の緑地1箇所3,851㎡
	平成31年度	南山土地区画整理地内の緑地3箇所3,026㎡ 小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡
第四期事業量	令和2年度	小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡ 南山土地区画整理地内の公園1箇所220㎡、緑地4箇所12,645㎡
	令和3年度	小田良土地区画整理地内の公園1箇所35,050㎡
		南山土地区画整理地内の公園1箇所220㎡、緑地1箇所2,495㎡
平成31年度事業報告		
事業目標	南山土地区画整理地内の緑地3箇所3,026㎡ 小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡	
事業実績	南山0箇所 小田良0箇所	
担当課評価	△	
評価理由	土地区画整理事業の進捗により事業実施に至らなかったため。	
今後の対応	南山については、公園・緑地あり方検討会による整備方針等に基づき、組合に指導・助言を行う。 小田良については、事業目標年次を令和2年度に変更している。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業を計画通り進めて欲しい。 ・土地区画整理事業の進捗状況によるものなので止むをおえない。 ・南山・小田良地区に関しては、組合、業者以外に関係者も多く開発も長期に亘るので、どの段階でどういう指導・助言を行うかの目標が極めて困難と思います。 ・事業実施できなかった。 ・事業実績がないので△評価になりましたが、「遅れ気味で進んでいる」のではなく、「担当課として取り組んだが、他事業の進捗都合で実施に至らなかった」という意味です。本件のように他事業の進捗に左右される事業は、待機状態や準備作業を進めているのであれば、良い評価を付けるべきです。その意味で、設定する目標は、担当課が執行しうる範囲を前提に作成されるべきかもしれません。 ・三反田湧水公園に関して、休日になると子供たちがたくさん遊んでいます。小川があるのが嬉しいが、もう少し小川らしく(小学生も楽しめるよう)つくって欲しかった。保護者が座れるピクニックテーブルが必要。陰になる木が一本はあるとよい。公園というのは誰のためのものですか。三反田湧水公園はほとんど何もなくて、子供たちが思いっきり遊べる所だと思うけれど、それを眺める大人(お年寄り)も立ち寄れる所だとさらに素晴らしいと思う。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-2 公共施設の緑化(学校など)

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、新たな公共施設の整備もされます。これらについて、積極的に広がりや厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	教育総務課
対象施設など	南山小学校における屋上緑化などの緑の創出と維持
10年間の目標	敷地内緑化及び屋上緑化などによる緑の創出と維持
展開手法など	南山小学校について、屋上緑化などの緑の創出を進めます。
備考	2-5に再掲

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
平成29年4月現在の状況	南山小学校の敷地内緑化及び屋上緑化の維持。	
事業目標量	南山小学校における敷地内緑化及び屋上緑化などの緑の創出と維持をする。	
第三期事業量	平成29年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成30年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成31年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
第四期事業量	令和2年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	令和3年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
平成31年度事業報告		
事業目標	敷地内緑化及び屋上緑化の維持	
事業実績	敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	敷地内緑化及び屋上緑化の維持が出来た。	
今後の対応	引き続き敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行う。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・屋上緑化は雑草に占領されていますが、緑の確保には貢献しているようです。セダムの高さ(5cm程度)を確保して草刈りするのも一つの管理方法と思います。</p> <p>・南山小については、校庭内に小さいながらビオトープ～池があり、とても安らいだ気持ちになります。我が稲城にもっとビオトープ・ビオトープ公園を設置する計画を検討することを提案いたします。</p> <p>・緑化した所の維持は大変だと思う。</p> <p>・概ね維持できているのではないかと思われる。</p> <p>・概ね維持されていると評価される。</p> <p>・新設校も時間の経過で緑化が定着してきていることと存じます。</p> <p>本年は現地を見ていませんが、写真で見る限り、屋上緑化も昨年感じた懸念が改善されているように感じております。なお、南山小学校については、本シート2-5でも評価の対象とされています(2-5には敷地内緑化という表現はありませんが)。本件目標は、おそらく開校に向けての事業を想定したものであると思いますので、開校後は、めでたく「目標は達成された」として、事業目標を終了させてはいかがでしょうか。</p> <p>(批判的にみると業務の水増しに見えてしまいます)</p>	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-3 地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討

施策の展開方針	この10年間で整備完了が見込まれている南山東部土地地区画整理事業・上平尾土地地区画整理事業・(仮称)小田良土地地区画整理事業では、適切に緑が確保され、良好な市街地が形成されるように、地区計画区域の拡充を図るとともに、緑化率などの導入について検討を進めていきます。
担当課	都市計画課
対象施設など	南山東部土地地区画整理事業・上平尾土地地区画整理事業・小田良土地地区画整理事業、押立第一地区
10年間の目標	3箇所145.9haの決定
展開手法など	各土地地区画整理事業区域において、地区計画の決定を行います。地区計画の内容に、緑化率などの導入を盛り込むことを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	都市計画課	
平成29年4月現在の状況	緑化率の制限を盛り込んだ地区計画を5箇所190.5haを決定	
事業目標量	3箇所145.9haを決定する。	
第三期事業量	平成29年度	南山東部土地地区画整理事業の変更に伴う地区計画変更において緑化率の制限する範囲を拡大する。
	平成30年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
	平成31年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
第四期事業量	令和2年度	新規策定予定の地区計画において、緑化に関する事項の導入を検討する。
	令和3年度	—
平成31年度事業報告		
事業目標	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	10年間の目標はすでに達しているため。	
今後の対応	新規策定予定の地区計画において、緑化に関する事項の導入を検討する。	

評価 (◎、○、△、×、—)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・KPIとしての、3ヶ所 はどうなるのか？新規策定予定の地区計画にいつ頃を目途に策定するのか？ 丁寧なご説明をお願い致します。 ・10年間の目標はすでに達しているのであれば、×でなく目標を早期達成の◎ではないでしょうか。 ・「×」とされた担当課評価に違和感があります。長期計画の目標が期間満了前に完了できたのであれば、良い評価がつくはずで、これを最低評価にすることは、◎でも×でも喜びも反省もしない、という姿勢や意識につながってしまいます。もっと真剣に評価システムに取り組んでいただきたいです。 ・今後に期待している。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-4 四季折々に楽しめる街路樹の整備

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、骨格となる道路に街路樹が整備されます。 街路樹の整備は、四季折々に花や紅葉が楽しめるなど季節を感じることでできる樹種を選ぶなど、緑を増やすだけではなく、暮らしにやすらぎをもたらすような工夫をして、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	南多摩駅周辺土地区画整理事業、榎戸土地区画整理事業、矢野口駅周辺土地区画整理事業、稲城長沼駅周辺土地区画整理事業、南山東部土地区画整理事業、上平尾土地区画整理事業、(仮称)小田良土地区画整理事業
10年間の目標	16路線(9,103.8m)
展開手法など	樹種や植栽パターンは、稲城市樹木花卉植栽計画及び地域住民の意見を反映します。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	未実施	
事業目標量	5路線(1,539m)を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	南多摩駅周辺土地区画整理事業：矢野口大丸線(150m)
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
平成31年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・今後の対応課題として、『稲城市樹木花卉植栽計画』改定で対応する事ですね。</p> <p>・10年間の目標「16路線(9,103.8m)」と、平成29年4月現在の状況「未実施」、事業目標量「5路線(1,539m)を整備する。」の関係がよく理解できていません。さらに、それを前提にして平成29年度に「南多摩駅周辺土地区画整理事業：矢野口大丸線(150m)」を掲げた以降、年度事業量が空欄になってしまうのは、どういう事情でしょうか。目標を置かなければ、評価シートが機能しなくなりますことを懸念いたします。また、昨年度の評価シートでは記入されていた第四期事業に引き継がれる具体課題が、本年度シートになると消えてしまいました。あえて目標を設定しないという姿勢をとるのであれば、評価に参加する意義を失います。</p>	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	南山地区5路線1,305m、上平尾地区2路線954m	
事業目標量	南山地区9路線4,984m、上平尾地区2路線1,077m、小田良地区2路線903m	
第三期事業量	平成29年度	南山地区4路線1,017mを整備する。
	平成30年度	南山地区3路線632m、小田良地区1路線245mを整備する。
	平成31年度	上平尾地区1路線123m、小田良地区1路線658mを整備する。
平成31年度事業報告に対する意見	令和2年度	南山地区5路線1,315m
	令和3年度	南山地区3路線1,478m
平成31年度事業報告		
事業目標	上平尾地区1路線123m、小田良地区1路線658mを整備する。	
事業実績	上平尾地区1路線123m、小田良地区1路線658mを整備済み。	
担当課評価	○	
評価理由	概ね予定通りの事業進捗である。	
今後の対応	順調な事業進捗が図れるよう、各組合と調整していく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・小田良地区1路線658mを整備完了ということですね。 ・概ね整備が進んでいることが評価される。 ・引き続きのご尽力をお願い致します。 ・予定通り事業を進めて欲しい。 ・土地区画整理事業の場合、時間はかかっても、着実な成果が期待できます。相手のある事業ですので、拙速よりは着実なステップに期待し、遅れはあまり心配いたしません。ただし、昨年度評価において「事業実施に至らなかった」とされた南山地区3路線632mは、本年度の事業目標に上積みされていません。第四期事業に加算されているのかもしれませんが、平成29年度からの事業量をみても、路線数・延長のみで書かれているので、やり残しと年度設定の関係が理解できなくなりました。遅延もありうるこの種事業では、目標設定や消化状況などを、よりの確に表現する方法が必要になると考えます。こういうった事情から、複数年度の事業を通じて当初の目標からは遅れているものと判断いたしました。誤解がありましたら訂正します。 	

4.駅前緑化プロジェクト

4-1 駅・駅前広場の緑化

施策の展開方針	市街地内の南北分断や交通渋滞を解消するために、JR南武線の高架事業を進めています。高架事業の完了にあわせて、JR南武線の稲城長沼駅と南多摩駅には、駅前広場が整備されます。これから新しく整備される駅前広場は、緑を大切にしている稲城市民の気持ちが伝わるような、緑が豊かで心やすらぐ姿となるように広がりと厚みを持った緑の整備を進めていきます。
担当課	区画整理課
対象施設など	JR南武線 稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場の整備
10年間の目標	稲城長沼駅・南多摩駅で緑豊かで心安らく駅前広場の整備
展開手法など	事業区間内の地権者や関係団体と、緑豊かな駅前広場の整備内容について検討していきます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	南多摩駅前広場(2,400㎡)整備工事施工	
事業目標量	JR南武線稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	-
	平成30年度	-
	平成31年度	-
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
平成31年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
・目標も結果もないのであれば、評価のしようがありません。この状態が継続していることを懸念します。	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-1 市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	人材の育成と組織化については、水と緑のまちづくりの地域リーダー、樹林地保全活動の指導者、自然観察の指導者、アダプト制度の参加者、公園でのプレイリーダーなど、活動の核となる人材の育成と、その組織化について取り組み、市民団体の知識や技術力向上のための支援、道具や資材などの活動支援について検討していきます。
担当課	土木課・市街地整備課
対象施設など	稲城中央公園・城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地
10年間の目標	プレイリーダーによる公園運営の定着(稲城中央公園) 樹林地管理ボランティアの活動の定着(稲城中央公園、城山公園)
展開手法など	稲城中央公園の一部区域で、市民主体のプレイリーダーによる公園の運営を軌道にのせるために、市民とともに検討を進めていきます。城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地で市民主体の樹林地の育成活動の展開を進め、樹林地管理ボランティア活動の定着を進めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	方向性が定まっていない。	
事業目標量	プレイリーダーによる公園運営を定着させる(稲城中央公園)。樹林地管理ボランティアの活動を定着させる(稲城中央公園、城山公園)。	
第三期事業量	平成29年度	プレイリーダー・樹林地管理ボランティアの活動方針の策定
	平成30年度	プレイリーダーの活動試行、樹林地管理ボランティア指導者の選定
	平成31年度	プレイリーダーの活動本格実施、樹林地管理ボランティア指導者の育成
第四期事業量	令和2年度	樹林地管理活動方針及び樹林地管理計画の策定
	令和3年度	ボランティア育成の実施
平成31年度事業報告		
事業目標	プレイリーダーの活動本格実施、樹林地管理ボランティア指導者の育成	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	実施に至らなかったため。	
今後の対応	検討会等で検討を行い、活動方針や管理計画を策定する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市の事例調査や調布市の事例研究など、分科会活動を進めながら実施したが担当者の移動でストップ状態となってしまっている。これからも分科会を再開し取り組み方法を進めていったらどうでしょうか。 ・今後協議会等で方向性を決めて、第四期までには、なんらかの形ができていることが望まれる。 ・コロナ禍の中ボランティアを募ることも難しいと思われるため、難しい部分があると思われる。 ・頑張ってもらいたい。 ・一連の事業のなかで、最も期待する事業であるが、毎年度、前年度以前からの残課題すら実施できず、停滞が継続している。本来の事業目標にからはほど遠い状況にあるといえます。このような結果を憂慮しています。 <p>(以下、毎年書かせていただいている事項です)</p> <p>事業趣旨は間違っていないと考えるので、着実な進捗を実現させるための方策について、見直していくことも必要ではないか。市の内部だけの検討では方針策定が困難であるなら、その実情を市民に公開して知恵や協力を求めること、市が制御しやすい活動にこだわることなく、市民パワーを集めやすい形態を模索することも重要と考える。</p>	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	市民共有の財産となるような公園、緑地あり方検討会を4回開催	
事業目標量	エリアマネジメント組織による公園づくり及び維持管理を検討する(南山東部地区)	
第三期事業量	平成29年度	樹林地管理の実施
	平成30年度	樹林地管理の実施
	平成31年度	樹林地管理の実施
平成31年度事業報告に対する意見	令和2年度	樹林地管理の実施
	令和3年度	樹林地管理の実施
平成31年度事業報告		
事業目標	樹林地管理の実施	
事業実績	第6回公園・緑地あり方検討会開催に向けた課題等の整理	
担当課評価	△	
評価理由	第6回公園・緑地あり方検討会の開催に至らなかったため。	
今後の対応	公園・緑地あり方検討会の開催に向け、課題と対応方針を整理し、組合との協議を進める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、開催は難しいのであろう。 ・多摩市の事例調査や調布市の事例研究など、分科会活動を進めながら実施したが担当者の移動でストップ状態となってしまう。これからも分科会を再開し取り組み方法を進めていったらどうでしょうか。 ・平成29年度の報告に「第5回公園・あり方検討会を開催」という実績が記述され、30年度の報告には「第5回 公園・緑地あり方検討会を開催」という実績が記述された。検討会の名称が微妙に異なるので、別のものか二重計上なのかは不明だが、本年度の報告で「第6回に向け課題等の整理」とあるので、3年度にわたり、事業内容が全く見えない報告が続いている。一方、各年度の事業量が全て「樹林地管理の実施」という抽象的ながらも実施レベルと受け取られかねない名称であり、事業実績との乖離も甚だしい。いずれにしても、この報告では評価もできず、進捗への不安だけの評価とした。 ・早期の検討会開催にむけて、ご尽力をお願い致します。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

施策の展開方針	稲城市が管理する公共施設の植栽に樹名板を設置し、市民の緑への関心を高め、緑に対し理解を深めていく機会を増やしていきます。
担当課	土木課・管理課・指導課
対象施設など	公園・道路植栽・学校(小学校11校・中学校6校)
10年間の目標	126公園 7路線 17校
展開手法など	児童生徒や多くの市民の目につきやすい主要な部分から樹種の調査を行い、市民による手づくり樹名板などの設置の検討を行います。その他、新たに整備される公園・道路では、主要な場所の植栽に樹名板を設置します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	-	
事業目標量	樹名板を126公園に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成30年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成31年度	樹名板を街区公園(14公園)に設置する。
第四期事業量	令和2年度	学校と連携した樹名板づくりの実施
	令和3年度	学校と連携した樹名板づくりの実施
平成31年度事業報告		
事業目標	樹名板を街区公園(14公園)に設置する。	
事業実績	稲城中央公園、城山公園、吉方公園、東方公園、いなぎペアパークの5公園に設置。	
担当課評価	△	
評価理由	5公園のみの設置だったため。	
今後の対応	学校と連携した樹名板づくりを実施していく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・樹名板があると何の木だか分かる。 ・今後学校と連携して実施していくことが望まれる。 ・5公園に設置できたことはうれしい。学習の一環として学生に知見を広げてほしいと思う。 ・目標は下回るものの、昨年度評価よりは設置公園数が増えてきたことはよいことです。ただし、資料写真で見る限り、設置協力者との関係もあるかもしれませんが、手作り感がありすぎて、市の事業に見えないことが残念です。作成と掲出には協力いただくとしても、材料支給くらいは市がカバーすれば、協力者・協力団体にも励みになり、設置が進むのではないのでしょうか。 <p>なお、担当課が違っても、市民には同じ公共樹木です。管理課との連携・調整も必要と考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅れがみながら、確実に実施できている点を評価 ・引き続き進めていく事が必要です。 	

担当課名	管理課	
平成29年4月現在の状況	樹名板の設置方法について、検討を行っている。	
事業目標量	樹名板を7路線に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成30年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成31年度	樹名板を3路線に設置する。
平成31年度事業報告に対する意見	令和2年度	樹名板を1路線に設置する。
	令和3年度	樹名板を1路線に設置する。
平成31年度事業報告		
事業目標	樹名板を3路線に設置する。	
事業実績	樹名板を3路線に設置した。 ・市道2040号線(トウカエデ) ・市道3・4・29号線(ハナミズキ) ・市道3・4・30号線(ナンキンハゼ)	
担当課評価	○	
評価理由	新規3路線に樹名板を設置した。	
今後の対応	樹名板の設置を進める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<p>・事業的に設置が進むのはよいことと思います。</p> <p>ただし、資料写真で見る限り、樹名板には統一性・一貫性がなく、場当たりの設置に見えてしまいます。街路樹については、業者発注したものと思えますが、樹名板というより管理ラベルを目の高さに掲げた目障りなものや、写真まで掲載して大型の板になった割に記載文字が小さいものなど、本来目的とした「児童や市民に親しまれる」に届いていないセンスと感じてしまいました。</p> <p>こういう指摘は、事業進捗評価に関わるものではありませんが、大きな樹名板は、樹幹に直接巻くべきではないし、管理タグは目立たせるものではないことをご理解下さい。シンプルにプラ板彫り文字でもいいので、統一感と文字の認識しやすさを求めたいところです。あわせて、立派な樹名板の少数設置よりは、少し歩けば目に入る程度の配置を求めたいところです。公園担当の土木課との横連携も検討いただけるといいと思います。</p> <p>・設置できたことを評価する。 ・新規3路線に設置できたことが評価される。 ・引き続き進めていく。 ・引き続きのご尽力をお願いします。 ・予定通りに進んでいる。</p>	

担当課名	指導課	
平成29年4月現在の状況	-	
事業目標量	樹名板を17校に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2校に設置する。
	平成30年度	樹名板を2校に設置する。
	平成31年度	樹名板を2校に設置する。
第四期事業量	令和2年度	樹名板を2校に設置する。
	令和3年度	樹名板を2校に設置する。
平成31年度事業報告		
事業目標	樹名板を2校に設置する。	
事業実績	樹名板を2校に設置した。	
担当課評価	○	
評価理由	2校に設置することができたため。	
今後の対応	適宜、取組を促していく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後段階的に設置していくことが望まれる。 ・引き続き進めていく。 ・引き続きのご尽力をお願いします。 ・良いと思う。 ・学生による設置ならもっとよかった。 ・少しずつでも設置が進むのはよいことだと思います。設置の実施がどう進められているのか不明ですし、それぞれの事情もあると思いますが、写真で拝見する2件が、それぞれ問題を抱えていそうなことが心配になります。第一小のエノキは、天地逆転していますし、掛け紐が樹皮に食い込んでいないかと心配です。第七小のマテバシは、マテバシイが正しいのではないかと。その後ろの幹に巻いたのも樹名板だとしたら、植物愛の上で違和感があります。児童の教育上もこのままでよいか心配です。 <p>表示の方法や内容については、土木課・管理課の欄にも意見していますが、各担当課の横の連携も必要と考えます。設置は児童教員に任せるとしても、材料提供くらいはできないでしょうか。</p>	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-3 水と緑の情報収集・提供

施策の展開方針	水と緑に関する情報を市民と行政が共有化し、より多くの市民自らが積極的に水と緑のまちづくりを進めていけるように、水と緑に関する情報の収集と提供に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
10年間の目標	ホームページなどによる情報提供の充実 アダプト団体の交流の場の提供と活動の活性化による情報交換の促進
展開手法など	指定管理者との連携を図り、市内各所の花の見所・時期、イベント情報などの公園・緑地の魅力を発信します。 アダプト制度による市民活動の活動報告の場の提供や各種活動団体同士の交流の場の提供などを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	市ホームページによる情報提供	
事業目標量	ホームページなどによる情報提供を充実させる。アダプト団体の交流の場を提供し、活動を活性化させ、情報交換を促進する。	
第三期事業量	平成29年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成30年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成31年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
第四期事業量	令和2年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	令和3年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
平成31年度事業報告		
事業目標	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化	
事業実績	市広報にアダプト制度の募集記事を掲載。市ホームページに掲載されているアダプト団体の内容を一部更新。	
担当課評価	△	
評価理由	・市広報へのアダプト制度の募集記事の掲載は行った。 ・市ホームページについては、新たな団体の掲載は出来たが、既存団体の掲載内容を更新することは出来なかったため、「△」とした。	
今後の対応	ホームページの内容の充実を図り、市民活動の活性化を促進する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成31年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・折に触れてアダプト制度のPR、広報活動をお願い致します。 ・各活動団体同士の交流が始まれば活性化につながり、行政の手助けにもなります。なんとか一歩進むといいですね。 ・この項目の目標は、「市ホームページの充実」「アダプト制度による市民活動の活性化」の二本立てであり、将来も含めた5年間、目標とする事業量も、同じ記述となっています。この2項目は、ホームページが手段で、活性化が目的と考えられますが、担当課の評価と理由は、手段についてのみ記載されていて、目的とした市民活動の活性化について、言及すらされていません。何年も同じ事業を掲げるからには、手段が目的化していないか、この手段で目的が達成できるのか、も検証していかないと、「書いてあったからやりました」だけが成果になってしまうおそれがあります。目的とする市民活動の活性化は、相手があってハードルも高いのですが、市民を巻き込んだ協働体制を構築する上で重要で、期待も高い目標です。その実現への工夫とご尽力に期待しています。 ・HPへのアクセス方法を工夫する必要はないでしょうか。 ・今の時代はHPが重要なので充実して欲しい。 ・活性化を期待する。 ・一歩一歩進めていくことが望まれる。 	